

①令和元年度スーパーサイエンスハイスクール研究開発実施報告（要約）

① 研究開発課題	<p>中山間地の利点をいかした、高い志と課題発見力で未来を創造する科学技術系人材の育成</p>																																															
② 研究開発の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題研究の取組を中核に、「自ら課題を発見し解決する力」を育てる教育プログラムを開発し、その有効性を検証する。 ○ 地域素材による課題発見力の育成を図り、テーマ設定期のプログラムに重点を置き、主体的に取り組む課題研究につなげる。その後、追研究と英語での発表を行い、世界で通用する表現力を育てる。 ○ 希望者には高度な継続研究に取り組む道筋を作り、大学と連携して卓越性を伸ばす高大接続のモデルにする。 ○ 課題研究の取組と教科学習との相乗効果を高めるため、全教科で「主体的・対話的で深い学び」と教科融合授業を実施する。 ○ 小中高で連携して課題発見力の育成と国際性の涵養を図る。 ○ 県内の中山間地校コンソーシアムを立ち上げ、共通なテーマで研究開発を行い、その成果を県内だけでなく全国・世界へ発信する。 ○ 自然科学部員が科学コンクール等へ挑戦し、高度な研究活動を行うよう支援する。 ○ 探究活動や事業全体の成果を評価・検証する方法を開発する。 																																															
③ 令和元年度実施規模	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="width: 30%; vertical-align: top;"> <p>飯山高校の普通科・探究科・スポーツ科学科生を対象とする。特に探究科生を主対象とする。</p> </td> <td colspan="5" style="text-align: center;">生 徒 数</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 年</td> <td style="text-align: center;">2 年</td> <td style="text-align: center;">3 年</td> <td style="text-align: center;">4 年</td> <td style="text-align: center;">計</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">普通科</td> <td style="text-align: center;">78</td> <td style="text-align: center;">81</td> <td style="text-align: center;">117</td> <td></td> <td style="text-align: center;">276</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(内理系)</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">26</td> <td style="text-align: center;">47</td> <td></td> <td style="text-align: center;">73</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">自然科学探究科</td> <td style="text-align: center;">40</td> <td style="text-align: center;">42</td> <td style="text-align: center;">59</td> <td></td> <td style="text-align: center;">141</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">人文科学探究科</td> <td style="text-align: center;">40</td> <td style="text-align: center;">38</td> <td style="text-align: center;">23</td> <td></td> <td style="text-align: center;">101</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">スポーツ科学科</td> <td style="text-align: center;">41</td> <td style="text-align: center;">28</td> <td style="text-align: center;">34</td> <td></td> <td style="text-align: center;">103</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">199</td> <td style="text-align: center;">189</td> <td style="text-align: center;">233</td> <td></td> <td style="text-align: center;">621</td> </tr> </table>	<p>飯山高校の普通科・探究科・スポーツ科学科生を対象とする。特に探究科生を主対象とする。</p>	生 徒 数					1 年	2 年	3 年	4 年	計	普通科	78	81	117		276	(内理系)	-	26	47		73	自然科学探究科	40	42	59		141	人文科学探究科	40	38	23		101	スポーツ科学科	41	28	34		103	計	199	189	233		621
<p>飯山高校の普通科・探究科・スポーツ科学科生を対象とする。特に探究科生を主対象とする。</p>	生 徒 数																																															
	1 年	2 年	3 年	4 年	計																																											
普通科	78	81	117		276																																											
(内理系)	-	26	47		73																																											
自然科学探究科	40	42	59		141																																											
人文科学探究科	40	38	23		101																																											
スポーツ科学科	41	28	34		103																																											
計	199	189	233		621																																											
④ 研究開発内容	<p>○研究計画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; vertical-align: top;">第 1 年次</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ① 1 年次学校設定科目「探究基礎」「SS1」の充実 課題発見力育成に向けたプログラム開発 ② 2 年次学校設定科目「探究実践（2年）」の改善・ルーブリックを用いた課題研究評価と研究に対する主体性の育成 ③ 授業改善の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・教科融合授業の開発と「主体的・対話的で深い学び」の実践 ・理科「方法から生徒が考える理科実験」教材の開発 ④ 地域連携と小中高連携事業の SSH における活用 ⑤ 中山間地コンソーシアムの立ち上げ ⑥ 自然科学部の充実 ～科学コンクールへの挑戦 ⑦ SSH の諸活動を通じた生徒育成ならびに教育活動変容を評価検証する方法開発 </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">第 2 年次</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ① 1 年次学校設定科目「探究基礎」「SS1」の改良 プログラム改良と探究基礎テキスト作成 ② 2 年次学校設定科目「探究実践（2年）」の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・全県発表会を見据えた計画の見直しとルーブリックの改良 ③ 2 年次学校設定科目「SS2」の改善 年間計画および指導体制の見直し、ルーブリック作成 ④ 授業改善の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・教科融合授業の開発と「主体的・対話的で深い学び」の実践 ・理科「方法から生徒が考える理科実験」教材の開発 ⑤ 地域連携、大学連携と小中高連携事業の SSH における活用 ⑥ 中山間地コンソーシアムの充実、タイ王国海外研修の企画開発・二校合同実施 </td> </tr> </table>	第 1 年次	<ul style="list-style-type: none"> ① 1 年次学校設定科目「探究基礎」「SS1」の充実 課題発見力育成に向けたプログラム開発 ② 2 年次学校設定科目「探究実践（2年）」の改善・ルーブリックを用いた課題研究評価と研究に対する主体性の育成 ③ 授業改善の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・教科融合授業の開発と「主体的・対話的で深い学び」の実践 ・理科「方法から生徒が考える理科実験」教材の開発 ④ 地域連携と小中高連携事業の SSH における活用 ⑤ 中山間地コンソーシアムの立ち上げ ⑥ 自然科学部の充実 ～科学コンクールへの挑戦 ⑦ SSH の諸活動を通じた生徒育成ならびに教育活動変容を評価検証する方法開発 	第 2 年次	<ul style="list-style-type: none"> ① 1 年次学校設定科目「探究基礎」「SS1」の改良 プログラム改良と探究基礎テキスト作成 ② 2 年次学校設定科目「探究実践（2年）」の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・全県発表会を見据えた計画の見直しとルーブリックの改良 ③ 2 年次学校設定科目「SS2」の改善 年間計画および指導体制の見直し、ルーブリック作成 ④ 授業改善の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・教科融合授業の開発と「主体的・対話的で深い学び」の実践 ・理科「方法から生徒が考える理科実験」教材の開発 ⑤ 地域連携、大学連携と小中高連携事業の SSH における活用 ⑥ 中山間地コンソーシアムの充実、タイ王国海外研修の企画開発・二校合同実施 																																											
第 1 年次	<ul style="list-style-type: none"> ① 1 年次学校設定科目「探究基礎」「SS1」の充実 課題発見力育成に向けたプログラム開発 ② 2 年次学校設定科目「探究実践（2年）」の改善・ルーブリックを用いた課題研究評価と研究に対する主体性の育成 ③ 授業改善の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・教科融合授業の開発と「主体的・対話的で深い学び」の実践 ・理科「方法から生徒が考える理科実験」教材の開発 ④ 地域連携と小中高連携事業の SSH における活用 ⑤ 中山間地コンソーシアムの立ち上げ ⑥ 自然科学部の充実 ～科学コンクールへの挑戦 ⑦ SSH の諸活動を通じた生徒育成ならびに教育活動変容を評価検証する方法開発 																																															
第 2 年次	<ul style="list-style-type: none"> ① 1 年次学校設定科目「探究基礎」「SS1」の改良 プログラム改良と探究基礎テキスト作成 ② 2 年次学校設定科目「探究実践（2年）」の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・全県発表会を見据えた計画の見直しとルーブリックの改良 ③ 2 年次学校設定科目「SS2」の改善 年間計画および指導体制の見直し、ルーブリック作成 ④ 授業改善の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・教科融合授業の開発と「主体的・対話的で深い学び」の実践 ・理科「方法から生徒が考える理科実験」教材の開発 ⑤ 地域連携、大学連携と小中高連携事業の SSH における活用 ⑥ 中山間地コンソーシアムの充実、タイ王国海外研修の企画開発・二校合同実施 																																															

	<ul style="list-style-type: none"> ⑦ 自然科学部の充実 ～科学コンクール, 科学オリンピックへの挑戦 ⑧ 国際交流の視点に立ったプログラムの開発 ⑨ SSHの諸活動を通じた生徒育成ならびに教育活動変容を評価検証する方法開発 ・3年間を見通した探究活動ルーブリックの開発
第3年次	<ul style="list-style-type: none"> ① 2年間の実践の評価に基づく探究科における教育課程の研究開発 ② 「探究基礎」「探究実践」「SS1」「SS2」で使用する「課題研究ガイド」作成 ③ 「探究実践(2年)」の研究計画書作成を重視し, 6月に研究計画発表会の実施 ④ 2学年全学科による課題研究の実施と合同発表会の実施 ⑤ スポーツ科学科1～3年生を同時展開としてSSH科目「探究実践」を新設 ⑥ 国際性の涵養に係る取組の強化, 中山間地コンソーシアムによるタイ王国海外研修の三校合同実施 ⑦ 授業改善の成果と課題の明確化, 教師の自己評価としての「授業改善診断表」作成と運用 ⑧ 生徒の3年間の成長をはかる「SSHによる行動変容診断表」の開発実施 ⑨ 3年間のSSH事業の中間総括・評価
第4年次 (本年度)	<p>中間評価に基づき改善を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「探究基礎」「探究実践」「SS1」「SS2」の指導内容の整理と発展 ② 「探究実践」「SS2」の全職員による指導体制の開始 ③ 信州大学との連携継続, 長野県立大学との連携開始 ④ 小中高連携事業の深化 ⑤ 国際性の涵養に係る取組の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ICT日米交流プログラムとして米国生徒との交流事業の実施 ・タイ王国海外研修の深化 ・課題研究の国際系コンテストへの参加 ⑥ 課題研究, 自然科学部研究のコンテストへの参加増, 入賞増 ⑦ 自然科学部の科学系オリンピックへの参加増 ⑧ 中山間地コンソーシアムにおける交流会の実施 ⑨ 3年間を見通した探究活動ルーブリックの改訂
第5年次 ・・・SSH 事業および 探究科制度 の総括	<ul style="list-style-type: none"> ① 4年間の実践の評価に基づく教育課程の研究整理・普及 ② 「探究基礎」「探究実践」「SS1」「SS2」の指導書の作成, 運用, 評価, 普及 ③ 「探究実践」「SS2」の全職員指導体制の改善深化, 手法の普及 ④ 信州大学, 長野県立大学との連携継続, 深化 ⑤ 小中高連携事業の総括 ⑥ 国際性の涵養に係る取組の継続深化 ⑦ 授業改善の成果に基づく普及, 更なる開発 ⑧ 自然科学部, 中山間地コンソーシアムの発展 ⑨ 3年間を見通した探究活動ルーブリックの運用改善, 普及 ⑩ 5年間の活動の総括と3期目に向けての展望と課題

○教育課程上の特例等特記すべき事項

探究科は学校設定科目「探究基礎」「探究実践」計6単位で「総合的な探究の時間(2)」「社会と情報(2)」「課題研究(2)」を代替する。普通科では学校設定科目「SS1」「SS2」計3単位で「総合的な探究の時間(1)」「社会と情報(2)」を代替する。スポーツ科学科では「SS1」1単位で「総合的な探究の時間(1)」を代替する。

学科・コース	開設する科目名	単位数	代替科目等	単位数	対象
自然科学探究科 人文科学探究科	探究基礎	3	総合的な探究の時間	1	第1学年
			課題研究	1	
			社会と情報	1	
	探究実践	2	総合的な学習の時間	1	第2学年
			課題研究	1	
	探究実践	1	社会と情報	1	第3学年
普通科	SS1	2	総合的な探究の時間	1	第1学年
			社会と情報	1	
	SS2	1	社会と情報	1	第2学年
スポーツ科学科	SS1	1	総合的な探究の時間	1	第1学年

○令和元年度の教育課程の内容

「課題発見力育成」を考慮して教育課程の研究開発を行った。

(1) 学校設定科目「SS1」

普通科1年生 78名・スポーツ科学科1年生 41名を対象に、情報スキル、情報リテラシー、地域学習である自然観察フィールドワーク、および先端技術学習であるサイエンスツアー、それらの事前学習、事後学習としてのレポート作成、次年度の課題研究に向けたプレゼンテーションスキルの学習を行った。

(2) 学校設定科目「探究基礎」

探究科1年生 80名を対象に、「SS1」の内容に加え課題研究を見据えて、探究力育成に向けた探究基礎演習、講演会&ワークショップ全5回、ミニ課題研究を行った。

(3) 学校設定科目「SS2」

普通科2年生 80名を対象に、教科「情報」を基礎として課題研究を行った。この活動を通して課題発見力、学習事項の活用力、論理的思考力、表現力を高めるよう指導を行った。現代の地域や社会の課題に対する興味関心を図り、理科課題研究の要素も加えた。

(4) 学校設定科目「探究実践(2年)」

探究科2年生 80名を対象に課題研究を実施した。課題研究のテーマ設定・計画立案・実験・考察・論文作成、口頭発表という一連の活動を通して課題発見力、学習事項の活用力、論理的思考力、表現力を高めるよう指導を行った。

(5) 学校設定科目「探究実践(3年)」

探究科3年生 82名を対象に、課題研究の完成と研究ポスター作成、要旨英訳を行った。県内や全国的な発表会・コンテストへの参加の機会を増やし、発表を通じてプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の向上と探究活動のさらなる深化を図った。

(6) スポーツ科学科 学校設定科目「探究実践」

スポーツ科学科3年生 34名、2年生 28名、1年生 41名を対象。一昨年までクラスごとに実施していた「スポーツ総合演習」を改編し、1～3年生を交えた専攻種目ごとに講座を作り課題研究を実施し、2年目となる。

○具体的な研究事項・活動内容

(1) 学校設定科目の充実発展と探究科における教育課程の研究開発

①「SS1」

- ・情報スキル・情報モラル・情報リテラシーの指導
- ・プレゼンテーションスキル育成としての「パソコン実習」と「一人一研究」の実施、および2年次SS2課題研究の課題発見につながる授業プログラムの実施
- ・コミュニケーション力の向上及び当日の学習内容の充実を目的とした、自然観察フィールドワークの事前学習の改善

②「探究基礎」

- ・自然観察フィールドワークの改善実施 自然観察フィールドワーク用英語テキストを運用
- ・探究基礎演習(方法から生徒が考える理科実験)における仮説設定力、仮説検証力、データ分析力を育成
- ・サイエンスツアー 英語科学論文を用いた学習とプレゼンテーションの充実、地域創生学習の実施
- ・ミニ課題研究 担当者による面談、探究活動ループリックによるパフォーマンスの自己評価を実施
- ・課題発見プログラムとして「探究基礎講演会&ワークショップ」を年5回実施

③「SS2」

- ・キャリア教育と連動した課題研究の実施

④「探究実践(2年)」

- ・課題研究の実施
- ・客観的評価としてループリックを用いたパフォーマンス評価の自己評価と成績評価

⑤「探究実践(3年)」

- ・課題研究の再まとめと要旨英訳
- ・課題研究ポスターの作成とコンテスト等への出展

⑥スポーツ科学科

- ・1年生から3年生までの種目専攻ごとにグループを編成し、課題研究の実施

※昨年より2年生全員が課題研究を実施する体制が整った。3月に合同発表会を実施。

(2) 地域や外部機関との連携の更なる発展

- ① 「SSH1」「探究基礎」「SSH2」「探究実践」において連携先との連携強化
 - ・ 全校対象 …SSH講演会
 - ・ 「探究基礎」 …自然観察フィールドワーク,サイエンスツアー, 講演会&ワークショップ
 - ・ 「探究実践」 …2年サイエンスツアー, 信州サイエンスキャンプ
 - ・ 課題研究における外部支援 …バスクリン研究所
- ② 信州大学との連携を強化 …工学部サマーインターンシップ
- ③ 長野県立大学との連携を開始 …空き家フィールドワーク

(3) 国際性の涵養に係る取組の強化

- ・ 2年サイエンスツアーにおける JICA 訪問と課題研究発表・質疑応答
- ・ 「探究実践(3年)」における, 課題研究要旨英訳付きポスター作製
- ・ タイ海外研修を中山間地コンソーシアム校で実施(県予算), 国際交流の機会設定
- ・ ICT日米交流プログラム(ICTを活用した米国生徒との交流事業)を開発実施
- ・ 英語による全国的なプレゼンテーションコンテストへの参加, 入賞

(4) 授業改善の実施と課題の明確化

- ① SSHの研究仮説に基づく全教科による授業改善の試み
 - ・ 小中高連携による連続性のある理数教育・英語教育の研究とカリキュラム開発
 - ・ 教科融合授業の推進と理科で「方法から生徒が考える理科実験」教材の開発
- ② 理科における先端科学の実験実施(遺伝子組換え実験)
- ③ 「主体的・対話的で深い学び」の研究
 - ・ 全教科で「授業発展自己診断表」を活用した授業改善の取り組みの実施

(5) 生徒の学校内外での活動強化

- ① 中高連携学力向上事業における本校生徒の中学生への学習支援(高校生チューター)
- ② 探究科生の各種コンテストへの参加
 - ・ 信州サイエンステクノロジーコンテスト, 信州サイエンスミーティングへの参加
 - ・ SSH生徒研究発表会のポスター発表や「長野県学生科学賞」等のコンテストへの参加
 - ・ 全国高等学校総合文化祭自然科学部門に参加, 企画・運営も担当
- ③ 地域向けの普及活動
 - ・ 「SSHフェスティバル」での「わくわくサイエンス教室」の計画と実施

⑤ 研究開発の成果と課題

○研究成果の普及について

- ・ 長野県総合教育センター研修における講習会で実践発表
「実践に学ぶ課題研究」・・・本校SSHで開発したテキスト, ルーブリックの頒布
- ・ 長野県教育委員会主催「探究的学び研究会」でルーブリックによるパフォーマンス評価の実践発表
- ・ 中山間地校コンソーシアムミーティングを開催し「探究基礎」の授業を实践
- ・ HPでの広報, 報告書, テキスト「課題研究ガイド」公開
- ・ SSH課題研究発表会の公開
- ・ SSH研究開発実施報告書の頒布

○実施による成果とその評価

生徒アンケート, 生徒観察, 教員アンケートおよび運営指導委員会の意見等により下記の通りにまとめた。

(1) SSH全体として

- ① 全学科で課題研究の取り組みが活発化し, 生徒の課題研究に対する「興味」と「成長」の自己肯定感が高まった。生徒の外部交流による意識向上と探究活動ルーブリックによるパフォーマンス自己評価により, 研究やプレゼンテーションへの積極性が向上した。
- ② 自然科学部員が増加し, 研究の質も向上した結果, 研究「ISSの色変化から探る大気の性質」が, 地球惑星科学連合大会高校生ポスターの部で入賞した。県内での行事, 科学の甲子園, 科学系オリンピックに参加した。
- ③ 地域における本校への評価が高まり, 小中学校との連携も進んでいる。県内に, 本校の「小中高連携」「探究科」をモデルとして実践を取り入れる学校が現れた。
- ④ 「総合的な探究の時間」の実施に向けて, 県内外の高校からの視察が増加した。
- ⑤ 教員の授業発展への意識向上と探究的な学習の意義の浸透が進み, 「主体的・対話的で深い学び」の実践, 教科融合授業, 「方法から生徒が考える理科実験」などの教材研究が進んだ。
- ⑥ 3年間を見通し, 課題研究における生徒育成観点と評価の基準を明確化した。

⑦ SSH講演会や各種研修に対する生徒の評価が高まり、生徒が研究活動および研究者を身近に感じるようになった。

(2) 「探究基礎」「SS1」

① 「探究基礎」を2年生次の課題研究における課題発見プログラムと位置づけ研究開発を行っている。課題発見につなげる講演会やワークショップの回数を昨年より増やした。

② 「SS1」の課題発見プログラムとして「一人一研究」を昨年に引き続き実施した。

③ 自然観察フィールドワーク、サイエンスツアーともに事前指導も含め改良したことで、より深い学びが実現し、生徒の明確な変容がみられ、自己肯定感も向上した。

④ ビデオ学習によるプレゼンテーションを新たに取り入れた結果、生徒同士の意見交換が活発となり、理解も深まった。プレゼンテーション時の質疑も活発になった。

⑤ ミニ課題研究のガイダンス時期を6月に早め、テーマ設定の重要性を意識させたことで、生徒の「成長」の自己肯定感が高まった。

(3) 「探究実践(2年)」「SS2」

① 昨年度より全学科の生徒が課題研究に取り組む体制が整い、探究科とスポーツ科学科、普通科でそれぞれ課題研究発表会を実施することができた。アンケートによる生徒の評価も高かった。

② 課題研究発表会を分科会・全体会方式で実施。1つの分科会を1・2年生40名程度で構成した結果、質疑が活発に行われた。ルーブリックによる発表評価も行い、発表の質も向上した。

③ 探究科、普通科でそれぞれ行われていた課題研究発表会で、スポーツ科学科の2年次課題研究が昨年から始まったことにより、発表日の統一、合同発表会が実施され、2年目となった。

④ 普通科SS2を4名の担当で指導を行っていたが、本年度より研究グループごとの指導担当者を別個に配置した。

(4) 「探究実践(3年)」

① 英訳要旨付きの発表ポスターを作成した。自主的に課題研究の全文英訳に取り組んだチームが3班あった。課題研究英訳に対する「興味」と「成長」の自己肯定感は過去最高の値となった。

② 英語発表の意義を強調した結果、英語で外部発表を志す生徒が現れ、SGH校の発表会、SSH生徒研究発表会で外国からの招聘チームに、CMA(英語プレゼンコンテスト)で発表を行った。CMAには2班が応募をし、両班ともに北信越代表の5グループに選出され、1班は全国入賞を果たした。

③ 長野県学生科学賞へ課題研究を出展し、複数の入賞を果たした。

○実施上の課題と今後の取組

(1) SSH全体として

① 学校設定科目「探究基礎」「SS1」において、1年次から2年次当初の「課題発見力」プログラム構築をめざして改良を重ねている。次年度は作成したテキストに沿って指導を行い、改善を図る。

② 学校設定教科「SSH」「探究」の指導マニュアル作成。テキスト「課題研究ガイド」の改善。

③ 教員の授業改善、「主体的・対話的で深い学び」の研究を継続的に推進。授業内容からの課題発見が増えること、課題研究との相乗効果を図ることを推進する。

④ 課題設定→調査→まとめという一連のサイクルを複数回体験できるプログラムを改善する。

⑤ 「探究活動における3年間を見通したルーブリック」を作成した。今後指導する教員と生徒の意見も取り入れることで改善しながら運用を行っていく。

⑥ 従来の小中高大連携による取組について改善点を見極め、継続発展させる。

⑦ 学校設定教科「SSH」「探究」の1～3年同時展開を研究する。

⑧ 中山間地コンソーシアムの連携強化を図る。

⑨ 科学系オリンピックの参加者増加を推進する。

(2) 「探究基礎」「SS1」

① 「探究基礎」を2年次の課題研究における課題発見プログラムと位置づけ、継続して改良を行う。

(3) 「探究実践(2年)」「SS2」

① 普通科2年生の課題研究(学校設定科目「SS2」)において、グループ指導担当者を配置して指導体制を厚くできた。研修会等を開催し、指導技術の向上、指導教員の更なる拡充を図る。

② 本年度、探究科とスポーツ科学科の「探究実践」を同一時間に設定した。普通科SS2も同一時間に設定することを検討する。

(4) 「探究実践(3年)」

① 今年度、英語で外部発表を行う研究班が複数現れた。啓発を続け、増やしていく。

② 2年次の課題研究を更に深化させるプログラムの構築を図る。